



伝統的な庭木のイメージを「格好良い絵画」へ

思い出を後世へつなぐ
庭木のアーティスト

降幡 篤志 さん (三郷)

史でもあるんです。どうしたらその思い出を1本でも残してもらえかと考え、若い人に人気のストーリートカルチャーに目を向け、その要素を取り入れた作品を作り始めました。そのこ

庭師になる前は建設現場をはじめさまざまな仕事を経験しました。それができなかったため、熱意を持って仕事に打ち込んでいる友人が格好良く見えたり、うらやましく思ったりしていました。「次は絶対に辞めたい」と決意し、庭師である父の下で修行を始めました。

現代の家は洋風のものが多く、それに合わせて庭も作られているので、松やみねなどの昔ながらの庭木は不要とされ、切られてしまします。でも庭木って、子どもが生まれた時に植えたり、家を建てた時に植えたり、代々その家と共に生きてきた歴史

庭師として働いている以上、根本には日本の木を大切にしたいという思いがあります。特に最近松は松くい虫被害による影響が庭木にも出てきています。松を定期的に手入れすることは、被害を防ぐことにもなります。庭木だけでなく安曇野の環境を守る上で

発信し続ける手入れの大切さ

若い人には古くさく思える庭木をいかに格好良くし、若者ウケ良くするか。天野尚さんのアカアリウムからヒントを得て、「庭リウム」を思い付きました。

庭リウムのこだわりポイントは余白。松の枝が生み出す空間を、枠で囲むことでシンプルながらも奥ゆかしさを感じるように制作しています。マイホームと一緒に植え、家族と共に成長してきた思い出の庭木を1本でも残してシンプルに飾れば、その家のシンボルとなります。庭リウムがきっかけで、庭木という思い出を無くすことなく、後世に残していける「格好良い絵画」になったらうれしいです。

思い出を「格好良い絵画」に

ろから仕事が好きになり、現在では誇りとやりがいを持って打ち込んでいます。

たどり着いた誇れる仕事

庭木とアカアリウムを巧みに融合させ、独自の世界を作り出している庭師・降幡篤志さんに話を聞きました。

原爆の恐ろしさを学ぶことから

7月4日の第1回学習会では、大学生が原爆を題材にした発表を行い、中学生が原爆の恐ろしさや被害の大きさを学びました。そこで感じたことをもとにグループでテーマを設定し、平和学習の第一歩を踏み出しました。

8月5日には、実際に広島を訪れ原爆ドームや平和記念資料館を見学。生徒たちは真剣な表情で写真やメモを取っていました。8月6日は平和記念式典に参列。109カ国から約5万人が参列した式典で生徒たちは、世界の平和を願う思いに触れ、戦争の悲惨さや平和の尊さをかみしめていました。

肌で感じたヒロシマを伝えるために

8月17日の第2回学習会では、広島での体験をもとに、グループでそれぞれ学んだことや気づいたことを共有し、発表会に向けた準備を行いました。大学生が各グループのまとめ役となり、生徒の意見を引き出しながら発表の構想をまとめる姿が見られました。

そして、9月14日の平和学習成果発表会・意見交換会では、各グループが2カ月間の成果を発表し、意見交換をしました。最後に、当時被爆した子どもたちが書いた詩を朗読し、平和への思いを発信しました。

参加した中学生からは「広島で起こったことや実際に被爆した人の言葉を多くの人に伝えていきたい」などといった感想が寄せられました。また、平和創造研究会のメンバーは「サポートすることは難しかったけれど、普段関わる機会が少ない中学生と一緒に学び、新鮮な意見が聞ける貴重な経験になった」と振り返っていました。



①学習会で真剣なまなざしで意見を交わす生徒たち。②「平和の子の像」に折り鶴をささげました。③広島市の宿泊先で語り部から被爆体験記を聞きました。④⑤学習成果発表会で感じたことを熱心に発表。⑥平和の子の像で記念撮影。

各グループの発表会での資料は市HPでご覧いただけます。
問 総務課 TEL71-2408



市HP



17歳で造園会社に入社後、庭師の父と大南造園を創業。代表に就いて7年目、庭師歴24年のベテラン。自社のロゴを制作したり、アパレルブランドを立ち上げるなど、積極的に活動中。



大南造園 Instagram